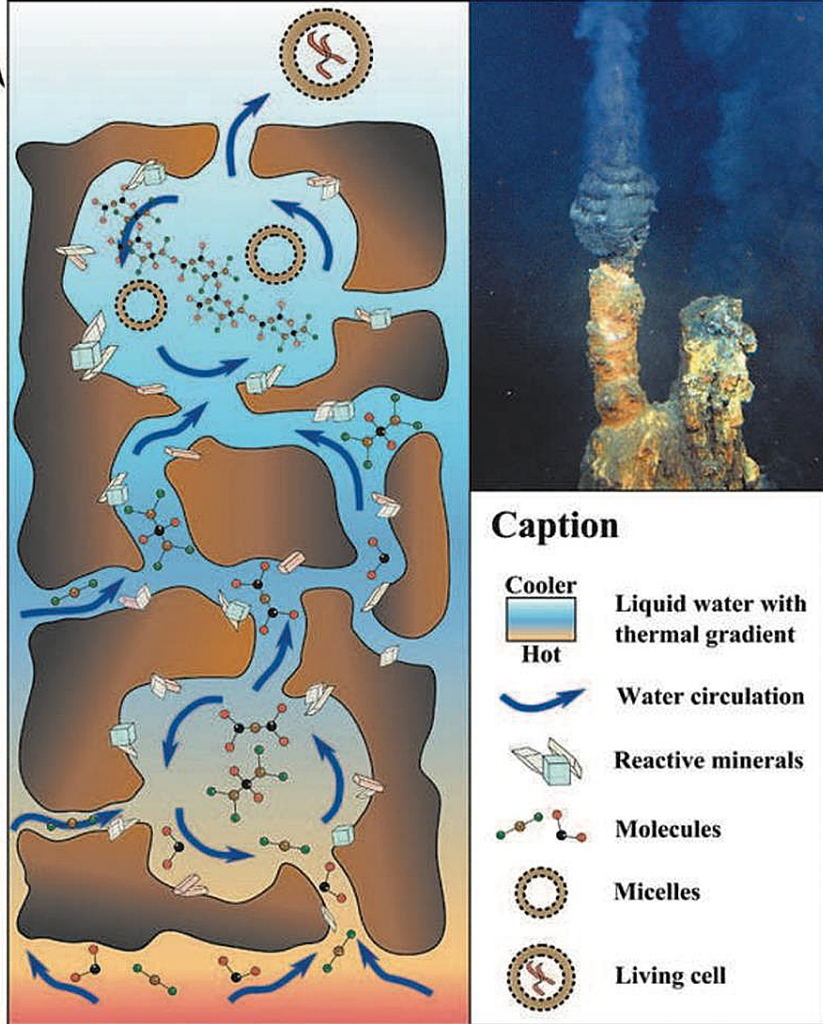


# 細胞がナトリウムではなくカリウムを選んだ理由

<作成:  
stnv基礎医学研究室>

Molecules Elongation



## 海底熱水噴出口による生命起源仮説の概要

(出典: Life 2020, 10(5), 52; <https://doi.org/10.3390/life10050052>)

主な成分・イオン	生命環境における主要無機イオンの比較(単位: mmol/L、pHは数値)				
	約40億年前の海水(推定)	微小孔(アルカリ性炭酸塩チムニー)	LUCA細胞内液(推定)	哺乳類細胞内液	現代の海水
Na <sup>+</sup> (ナトリウムイオン)	10~100	←(同程度)	5~20	約10~15	約470
Cl <sup>-</sup> (塩化物イオン)	10~100	←	5~40	約3~10	約550
K <sup>+</sup> (カリウムイオン)	10~50	↑	80~160	約130~150	約10
Mg <sup>2+</sup> (マグネシウムイオン)	10~50	↓	0.5~2	約0.5~1	約53
Ca <sup>2+</sup> (カルシウムイオン)	10~50	↓	約0.0001	約0.0001	約10
PO <sub>4</sub> <sup>3-</sup> (リン酸イオン)	微量	←↑	5~30	約1~10	約0.5
SO <sub>4</sub> <sup>2-</sup> (硫酸イオン)	数~数十	↓	0.5~数	約0.5前後	約28
CO <sub>2</sub> (溶存二酸化炭素)	数百~数千	↓	間接的に関与	間接的に関与	約2
【pH】	約5(酸性)	↑	6.8~7.4	約7.2	約8.1

◆他の惑星に「細胞」と呼べる構造を基本にした生物が居た場合、優先的に用いている元素の種類が違っていても驚くべきことではないが、以下に述べるのは、あくまで地球に生まれ育った生物の話である。

◆細胞が**カリウム(K<sup>+</sup>)**を選んだのは、酵素やタンパク質の安定性、膜電位形成の効率、そして水和構造の違いによって、生命活動にとって**K<sup>+</sup>**がより適したイオンだったからである。**ナトリウム(Na<sup>+</sup>)**は外界に豊富であるが、細胞内では不安定要因となりやすいため、生命は能動的に**K<sup>+</sup>**を選んだ。

◆【**膜電位の形成**】・細胞は **Na<sup>+</sup>**を外に、**K<sup>+</sup>**を内に保つことで静止膜電位を作り出す。・この電位差が神経伝達や筋収縮の基盤となり、生命活動の「電気的リズム」を可能にした。

◆【**水和構造の違い**】・**Na<sup>+</sup>**は小さなイオン半径を持ち、水分子を強く引き寄せて厚い水和殻を形成する。・そのため、**Na<sup>+</sup>**はチャネルや酵素の結合部位に入り込みにくく、逆に**K<sup>+</sup>**は水和殻が薄く、選択的に透過・結合しやすい。

◆【**進化的背景**】・原始の海水は**Na<sup>+</sup>**が豊富であったが、熱水噴出孔の微小孔環境では相対的に**K<sup>+</sup>**が濃縮されやすかったと推定される。・生命はその環境を利用し、やがて**Na<sup>+</sup>**を排出し**K<sup>+</sup>**を保持する能動的な仕組み(**Na<sup>+</sup>/K<sup>+</sup>** ATPaseなど)を獲得した。

◆【**酵素活性の安定化**】・多くの酵素は **高K<sup>+</sup>・低Na<sup>+</sup>**環境で最も安定して働くことが知られている。  
 ・**Na<sup>+</sup>**が多いとタンパク質の立体構造が乱れやすく、リン酸基やヌクレオチドの安定性が損なわれる。  
 ・**K<sup>+</sup>**は酵素の活性中心やRNAの折り畳みに適したイオンであり、生命の化学反応を支えるものである。